

就業構造基本調査を用いた介護労働者の就業行動

石井加代子

論文要旨

人口の高齢化が進む中、介護労働者の確保・定着は、早急に実現すべき政策課題として着目されている。特に、介護労働者における高い離職率や低い賃金は大きな問題として取り上げられているが、実際、これらに関するエビデンスはあまり多くない。そこで、本研究では、介護労働者の就業行動を他産業で働く労働者のそれと比較することにより、高い離職率は介護労働者特有のものであるのかについて明らかにした。

分析の結果、介護職の離職率は、就業形態によって差があり、施設の正規の介護労働者については、離職率がさほど高くないこと、また、就業継続年数別に離職率をみると、他産業の同就業形態の労働者と大差がないことが明らかになった。介護労働者の就業動向として、介護職就業以前もしくは離職後の就業内容について確認したところ、他職種からの流入もしくは他職種への流出が多くみられることがわかった。